

## 市政報告

今定例会では、議案以外に市政の重要事項として、次のとおり報告がありました。

市政報告の内容および市政報告に対する質疑については、インターネット録画放送（川越市議会ホームページから）または今定例会の会議録（5月下旬頃から、川越市議会ホームページまたは図書館等で）よりご覧いただけます。

### 台風第21号に対する初動対応にかかる内部検証結果報告書について

#### <検証の概要>

##### 1. 検証の目的

平成29年台風第21号に対する寺尾地区における市の初動対応の問題点を検証する。

##### 2. 検証の対象

浸水被害があった寺尾地区における市の初動対応（10月22日7時～10月23日21時）

#### <検証結果>

**検証事項1：寺尾地区の浸水被害の情報伝達は適切になされたのか。**

**【検証結果】寺尾地区の浸水被害の情報伝達は適切にはなされなかった。**

①災害対応部長会議での情報の取り扱い、それに基づく方針決定の方法が明確にされていなかった点、②災害対応部長会議や市長へ誰がどのように災害情報を報告するか明確になっておらず、事前周知が不十分だった点など、組織的な要因によるところが大きい。

**検証事項2：寺尾地区における内水はん濫に対する認識や体制は十分であったのか。**

**【検証結果】寺尾地区における内水はん濫に対する認識や体制は十分ではなかった。**

内水被害対策は関係課が連携して取り組む必要があるが、各課の役割分担が進み、横断的な業務連携がされていなかった。この点が今回の内水はん濫発生危険性に対する正しい認識を持てなかった大きな要因で、検証事項1の「情報伝達が適切になされなかった」ことや初動対応の遅れにつながった。

**検証事項3：市民に対する情報発信は適切だったのか。**

**【検証結果】市民への情報発信は適切ではなかった。**

災害時における情報の不足は、市民の不安を増大させるのみならず、被災者の避難行動の制約につながりかねないものであり、市民の不安解消や避難行動の指針とすべく積極的に早期の段階で情報提供を検討すべきだった。

この検証結果を踏まえ、川越市防災体制検討本部を設置し、災害対応時の組織体制、災害時の情報の収集、避難情報等の基準の見直し等の事項について検討を進めていく。

### 市内中学生傷害事件に係る検証報告書について

教育委員会は、裁判所での一審の内容に基づき、裁判所の指摘と学校の対応がどう違っていたのか、検証し、再発防止策をまとめた。検証に当たっては、次の3つの視点に対し、4つの内容の検証を行った。

#### ○視点 1 いじめの状況の把握について

- 2 加害者らへの適切な指導・監督について
- 3 いじめを受けている生徒への支援について

#### ○検証内容

- (1) 当時の学校の状況および対応
- (2) 学校はどうすべきであったのか
- (3) なぜ、そのような対応が取れなかったのか
- (4) 再発防止に向けて

#### <未然に防ぐことができなかった原因>

- ・教職員一人一人の初期対応における認識が甘かったことから、一連のトラブルの背景を把握し、いじめの疑いを問いかけるような対応ができなかった。
- ・校内の組織的な指導体制が十分に機能しておらず、学校全体で行うべきであったいじめ問題としての具体的な対応策について協議されなかった。
- ・加害者らの行為がいじめと認識できていなかったため、学校と加害者らの保護者による十分な連携を図ることができなかった。

- ・被害者の特性を十分に理解しておらず、被害者が関係するトラブルを単なる生徒指導上の問題として捉え、被害者の保護者と緊密に連携を図ることができなかった。

#### <再発防止に向けて>

再発防止策をまとめ、今後、取り組みの強化を進める。

- (1) いじめに対する教職員一人一人の認識の徹底と校内指導体制の整備
- (2) 子どもたち自身の手によるいじめの防止等に向けた取り組みの推進
- (3) 子どもたちが安心して相談できる相談体制の整備
- (4) いじめ問題等の対応における保護者、関係機関との緊密な連携
- (5) 市教育委員会と学校、関係機関との生徒指導における緊密な連携

検証を終え、いじめ問題の対応における関係機関との連携の重要性を改めて認識し、「ストップいじめ！チーム川越」をスローガンに、取り組みを推進していく。